

令和 7 年度高等学校入学者選抜審議会 第 1 回専門委員会

報告 関係資料

I	これまでの審議について	1
1	令和 5 年度 第 3 回専門委員会について	1
2	令和 6 年度 第 1 回専門委員会について	3
3	令和 6 年度 第 1 回入選審について	4
4	令和 6 年度 第 2 回専門委員会について	5
5	令和 6 年度 第 2 回入選審について	7
II	ideal スクールの概要について.....	8

I これまでの審議について

1 令和5年度 第3回専門委員会について

(1) 審議の経過

日時 令和6年3月25日(月) 午後2時～午後4時

場所 県庁9階 第一会議室(オンライン会議)

内容 現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について

(2) 審議の概要

【審議】現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について

1 調査研究の方向性

(本県における将来構想)

- 第3期県立高校将来構想第2次実施計画(令和5年3月)

未来を拓く魅力ある学校づくり

- ・社会的ニーズに応じた高校、学科の在り方
- ・学びの多様化への対応
- ・少子化の中での高校の在り方
- ・魅力ある学校づくり

- 現行入試制度については、令和5年度第1回入学者選抜審議会において、旧制度の課題を概ね解消しているとして、一定の成果が認められた。しかし、今後、各学校の特色化が進められる中で、現行の入試制度の範囲には収まらない選抜方法が求められる可能性がある。

(調査研究の方向性)

- 今後、「学びの多様化への対応」や「少子化の中での高校の在り方」など、高校の将来構想を進める中で、現行入試制度は維持しつつ、新たな入試制度についても検討する必要がある。
- 他都道府県では、特色ある教育を進めるにあたり、入試についても一般的な学力検査と調査書によらない選抜方法等を用いている事例が見られる。
- そこで、他都道府県の特色ある学校で実施されている例外的な選抜方法について、調査研究を行う。

2 他都道府県の公立高等学校における特徴的な入試制度の事例について

（委員からの御意見）

- ・多様な学びに対する入試制度を様々な形で確保することは、今後必要な観点である。
- ・大学の総合型選抜のように、多様なニーズ、多様性のある子どもたちの受け入れという観点で、新たな仕組みの入試制度を、従来の入試制度とは別の形で考えていく必要がある。
- ・どのような教育体系、教育システムを構築するかによる。その教育システムに合致する入試制度を検討する必要がある。

2 令和6年度 第1回専門委員会について

(1) 審議の経過

日時 令和6年7月5日(金) 午後2時～午後4時

場所 県庁9階 第一会議室

内容 現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について

(2) 審議の概要

【審議】現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について

1 本県における「新たなタイプ」の学校の設置

- 第3期宮城県将来構想で設置することとしていた「新たなタイプ」の学校を、「ideal (アイデアル) スクール」として設置する。

2 ideal スクールにおける入試制度について

- 現行の制度によらない入学者選抜も視野に入れた検討が必要となる可能性がある。
 - ideal スクールでの入試を検討するにあたり、次のようなものが考えられる。
 - ・ 共通選抜を実施しない(特色選抜を100%とする)ことができる。
 - ・ 学力検査の倍率を、一部又は全部の科目で0倍とすることができる。
 - ・ 受験生の意欲を測ることのできる学校独自の選抜方法を導入できる。
- ⇒ 学力検査の代わりとして学校独自検査の実施、エントリーシートの提出 など

(委員からの主な意見)

- ・ どのような教育体系、教育システムを構築するかによって、その教育システムに合致する入試制度を検討する必要がある。
- ・ 多様な生徒の受け入れを想定すると、現行の入試制度の枠組みでは難しい。現行の枠組みを利用しつつ柔軟に対応していくことや、複数の枠組みで入試を実施することも検討する必要があるのではないか。
- ・ ideal スクールにおける入試は先進的な例となる。今現在でも多様な生徒を受け入れている学校があり、そのような学校への応用も視野に入れて検討が必要。

3 令和6年度 第1回入選審について

(1) 審議の経過

日時 令和6年7月25日(木) 午前10時～午後0時

場所 県庁11階 第二会議室

内容 専門委員会報告「現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について」

(2) 審議の概要

【報告】現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について

1 ideal スクールの概要について

(委員の主な意見)

- 外国から来ている子供たちがいる。日本語の学習に苦しさを抱えており、現行の入試制度だと難しいものとみている。そのような子供たちに門戸を広げられるとよい。
- さまざまな問題を抱える子供たちに対応するために、教員の研修について整備すべきである。
- 求める生徒像を見ただけでも相当に多様である。ニーズが大きく異なるので、成功させるのは難しいと思うが、是非成功させて新しい学校のモデルになることを期待する。

2 専門委員会の設置について

(設置の理由)

- 令和9年度開校を予定している ideal スクールには、様々な背景を抱えた生徒などが、幅広い目的を持って出願することが想定される。したがって、ideal スクールで実施する入学者選抜においては、現行の入試制度によらない例外的な選抜方法も含めて、十分な検討が必要であるため。

(調査研究の内容)

- ideal スクールにおける入学者選抜の在り方について

4 令和6年度 第2回専門委員会について

(1) 調査研究の目的

(ideal スクールにおける入学者選抜の在り方について) 令和9年度開校を予定している ideal スクールには、様々な背景を抱えた生徒などが、幅広い目的を持って出願することが想定される。そのため、ideal スクールで実施する入学者選抜においては、現行の入試制度によらない例外的な選抜方法も含めて、十分な検討が必要である。

本専門委員会は、ideal スクールにおける入学者選抜の在り方について、専門委員のそれぞれの立場からの意見を収集することを目的とする。

(2) 審議の経過

日時 令和6年10月31日(木) 午後2時～午後4時

場所 県庁11階 第二会議室

内容 大阪府立高等学校の視察について

ideal スクールにおける入学者選抜の在り方について

(3) 審議の概要

【報告】大阪府立高等学校の視察について

1 エンパワーメントスクールにおける入試について

(対象とする生徒像)

- 勉強が苦手、人間関係に不安がある、進路選択が決まっていないなどの悩みを持つ生徒

(選抜方法)

- 第一手順として、学力検査の基準点に達した者の中から、定員の50%を上限として、面接、活動の記録、自己申告書により選抜する。
- 第二手順として、学力検査と評定の総合点により選抜する。

2 ステップスクールにおける入試について

(対象とする生徒像)

- 義務教育段階までに学校生活での困りやつまずきを経験している生徒

(選抜方法)

- 学力検査(3科目で、基礎的な内容)、調査書、自己申告書、面接により選抜する。
- 面接は個人面接とし、事前に内容を公表した上で、口頭または必答いずれかを選択して受験する。

【審議】ideal スクールにおける入学者選抜の在り方について

(委員からの主な意見)

○ 現行の入試制度との関連について

- ・さまざまなタイプの生徒を受け入れるとすると、1つの物差しで選抜を行うのは難しいのではないか。
- ・中学生は誰もが高校に入りたいと考えており、意欲はどの生徒にもある。その中で、どの志望者を高評価にするかという基準が必要。学力を評価するのではない、となると、その基準が明確でなくなってしまうのではないか。
- ・送り出す側としては、「基準に達していれば合格できる可能性があるから頑張ろう」と自信を持って言える基準が必要である。

○ 学力検査について

- ・現行の制度と新たな制度のいずれで行うにしても、学力検査は必要である。

○ 意欲の評価について

- ・中学校の立場からは、単に学力を評価するのではなく、意欲を評価するという点が大変嬉しい。
- ・意欲を評価するため、事前に提出する自己申告書や、面接、作文などの実施が望ましい。
- ・現行の特色選抜でも意欲の評価は可能である。
- ・各校の求める生徒像により、測られる意欲は異なるのではないか。
- ・対人関係に問題を抱えている生徒も多いと考えられるため、当日の面接のみでは力が発揮できない可能性がある。しかし、事前提出資料のみでは中学校教員の手が入っており、純粋に本人の努力が反映されているとは言い難い側面もある。
- ・意欲が高い状態にある生徒だけを入学させるということが、この ideal スクールの理念においてよいことなのか。

5 令和6年度 第2回入選審について

(1) 審議の経過

日時 令和6年11月18日(月) 午前10時～正午

場所 県庁9階 第一会議室

内容 専門委員会報告「ideal スクールにおける入学者選抜の在り方について」

(2) 審議の概要

【報告】ideal スクールにおける入学者選抜の在り方について

(1) 調査研究の目的

(2) 令和6年度第2回専門委員会における審議の概要

(委員長より)

- ideal スクールについては期待が高まっている。その分、入試の形態で難しいところもあろうかと思う。慎重な審議の上、魅力的な入試形態にしていきたい。

1 設置の背景と基本理念

- 生徒の興味・関心、進路希望の多様化
- 様々な背景を抱えた生徒の増加（学校生活や学習に困難を抱える生徒など）

○新たなタイプの学校の基本理念
**個に応じた多様な学びと、学習者中心の支援により、
 生徒の自律的な学びの実現と、将来の社会的自立に必要な資質・能力の
 育成を目指す。**

2 新たなタイプの学校の概要

- 設置場所等 宮城広瀬高等学校を新たなタイプの学校に転換し、
 令和9年度に開校(予定)
 ※宮城広瀬高等学校は令和9年度に募集を停止し、
 令和10年度末で閉校
- 募集定員 200名
- 設置課程等 全日制・普通科・単位制

3 求める生徒像

○次のような、多様な生徒を求めます

大学進学等の進路希望を実現するため、自分のペースで学びたい

興味関心や適性に合わせ自己決定しながら柔軟に学びたい

音楽活動やスポーツ等のため自由な時間を持ちながら学びたい

集団生活や対人関係に不安を感じているが、自分の適性に合わせて学びたい

学習のつまずきの解消のため、基礎基本に戻って学びたい

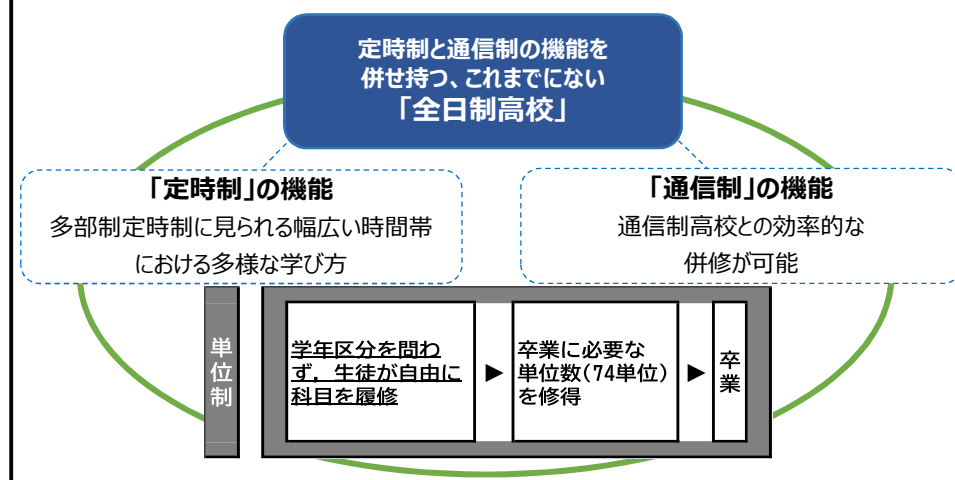
学校に登校していない期間があったが、自分の状況に合わせて学びたい

アイデアル スクール



idealとは「理想、理想的」という意味の英単語ですが、ここでは、各単語の頭文字を合わせた造語としての意味を重ねています。さらには、目指す教育の実現のために、多くのアイデア (idea)、工夫を追求していくという思いが込められています。

4 学校の位置付け



5 学校の特徴

I フレキシブルな学び方

- (1) 単位制の導入
- (2) 幅広い授業時間帯の設定
- (3) 通信制高校との併修
- (4) 資格取得、ボランティア等を単位として認定

II 魅力ある学び

- (1) 探究的な学び
- (2) ICTを活用した学び
- (3) 地域等と連携した学び
- (4) 多様な人材を活用した学び

idealスクール

III 多様な教科・科目

- (1) 多様な進路希望に応じた教科・科目
- (2) 学び直しのための教科・科目
- (3) 習熟度別授業の導入

IV サポート体制の充実

- (1) チューター制の導入
- (2) 多様なスタッフ（スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー、地域人材・NPO等）による支援

7 多様な教科・科目

- 多様な科目の設置に加え、資格取得やボランティア、他の高校での科目履修などの学校外学修等を幅広く単位として認定
- 将来の社会的自立に必要な資質・能力の育成に繋がる学びや多様な人材を活用した学びなど、魅力ある学びを実施

設置する科目の視点

- 国公立大学受験に対応した学び
- 教養を深める学び
- 多様な興味・関心に応じた学び

学び直しにも対応

多様な進路の実現

大学
進学

専門
学校

就職

6 幅広い授業時間帯

- 1～8校時の幅広い授業時間帯を設定し、生徒自身の生活スタイル、興味・関心等に応じて、主体的な授業選択が可能

1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時	7校時	8校時
主に選択教科・科目		コアタイム(主に必修教科・科目を設置) LHR及び総合的な探究の時間等も含む				主に選択教科・科目	

	1	2	3	4	5	6	7	8
月	選	必	必	必	必	必		
火	選	選	必	必	必	必		
水			必	必	必	必	選	
木			必	必	必	必	選	
金		選	必	必	必	必		
コアタイム								

8 充実したサポート体制

- 従来の「学級」は置かず、チューター制を導入

チューター



・生徒の進路希望に応じた、
教科・科目の選択や時間割
の作成などのサポート
・学校生活や友人、家庭に関
する悩みへの相談対応

生徒



生徒の希望する進路の実現や目標の達成

- 地域人材やNPO等とも協力してさまざまな側面からサポート体制を構築
- ICTを活用した生徒との連絡体制を構築

令和 7 年度高等学校入学者選抜審議会 第 1 回専門委員会

審議 関係資料

I	ideal スクールにおける入試制度の考え方について	1
1	求める生徒像	1
2	ideal スクールにおける入試制度	1
II	ideal スクールにおける入試制度案について	2
1	複数の選抜方法の併用について	4
2	面接について	4
3	学力検査について	4
4	調査書について	5
	(1) 評定について	5
	(2) 評定以外の記載事項について	6
5	志望理由書について	6
6	入試制度案全体について	6

I ideal スクールにおける入試制度の考え方について

1 求める生徒像

○ ideal スクールにおいては、6つの求める生徒像を掲げており、様々な背景や目的を有する生徒を幅広く受け入れることとしている。

⇒ 入学を希望する多様な生徒の能力や意欲をはかることのできるようにする必要がある。特に、④、⑤、⑥については、県民からの注目も高く、ニーズも見込まれるため、これまで以上に幅広い生徒に対応する選抜とする必要があるのではないかな。

＜求める生徒像＞

- ① 大学進学等の進路希望を実現するため、自分のペースで学びたい
- ② 興味関心や適性に合わせ自己決定しながら柔軟に学びたい
- ③ 音楽活動やスポーツ等のため自由な時間を持ちながら学びたい
- ④ 集団生活や対人関係に不安を感じているが、自分の適性に合わせて学びたい
- ⑤ 学習のつまずきの解消のため、基礎基本に戻って学びたい
- ⑥ 学校に登校していない期間があったが、自分の状況に合わせて学びたい

2 ideal スクールにおける入試制度

○ 現行の入試制度は、1回の学力検査で、共通選抜と特色選抜という2種類の基準で選抜する制度である。受験生の資質・能力を多面的に評価し、選抜していることから、ideal スクールにおいても、現行の枠組みで選抜可能な生徒の受験が見込まれる。

○ しかし、ideal スクールの入学者選抜では、評定や学力検査だけでは測ることのできない、様々な背景や目的を有する生徒の多様な能力や意欲も見取り、さらに幅広く選抜する必要があることから、新たな枠組みによる選抜が求められる。

II ideal スクールにおける入試制度案について

- 現行の入試制度で実施している共通選抜と、新しい選抜方法「ideal 選抜（仮）」を併用した入試制度とする。

- 選抜は、以下に基づいて行う。
- ・学力検査の結果
 - ・調査書
 - ・面接の結果
 - ・志望理由書（出願時に提出）の記載内容
- 試験当日の学力だけでなく、中学校3年間の学習の成果や日頃の学習への取り組みも含めて総合的に評価するため、現行の入試制度における共通選抜を実施する。
- 現行入試制度における特色選抜に代えて、ideal 選抜（仮）を実施する。ideal 選抜（仮）では、多様な背景や目的を有する受験者の多様性を評価し選抜するため、次のA方式、B方式及びC方式で選抜を行う（表1）。
- A方式は、面接の結果を重視する方式である。
- B方式は、調査書の評定と面接の結果を重視する方式である。
- C方式は、試験当日の学力検査の結果を重視する方式である。
- 1回の出願に対して、共通選抜及びideal 選抜（仮）のA方式、B方式、C方式の全てによって選抜を行う。

表1 現行の共通選抜とideal 選抜（仮）を併用する入試制度

「△」は選抜の参考とするもの、「－」は選抜資料としないもの。

		共通選抜	ideal 選抜（仮）		
			A方式	B方式	C方式
選 抜 資 料	学力検査	500点	－	－	○
	調査書（評定）	195点	－	○	－
	調査書（評定以外）	－	○	○	○
	面接	－	○	○	○
	志望理由書	－	△	△	△

A方式

面接の結果を重視する方式

- 明確な目標や目的を持って高校で学びたい生徒
- 自分の適性に合わせて学びたい生徒
- 音楽活動やスポーツ等、学校以外の活動と学習を両立したい生徒
- 学習のつまずきがあっても、基礎基本から学び直したい生徒
- 学校に登校していない期間があっても、新たな気持ちで学びたい生徒

B方式

調査書の評定と面接の結果を重視する方式

- 中学校において、学校生活を大切にして取り組んできた生徒
- 授業や日々の学習に熱心に取り組んでいるが、緊張などにより試験で力を発揮しづらい生徒

C方式

試験当日の学力検査の結果を重視する方式

- 目標達成に向けて学習に励んできた生徒
- 興味関心に基づき主体的に学んできた生徒
- 集団生活や対人関係に不安を感じながらも、自分の適性に合わせて学び続けてきた生徒
- 学校に登校していない期間があっても、学習に努めてきた生徒

1 複数の選抜方法の併用について

- 多様な背景や目的を有する生徒を、1つの尺度によって選抜することは困難であることから、原案では、複数の選抜方法を併用し、1回の出願に対して、全ての方法によって選抜することを想定している。

2 面接について

- ideal スクールの入学者選抜では、「意欲」を見取る必要があると考え、原案では、面接の結果について、ideal 選抜（仮）のA方式、B方式、C方式で選抜資料として用いることを想定している。
- 宮城県の現行の入試制度では、面接の形態（個人面接、集団面接）は学校ごとに定めている。

3 学力検査について

- 原案では、共通選抜及び ideal 選抜（仮）のC方式で選抜資料として用いることを想定している。
- C方式においては、一部の教科を重視して評価することも考えられる（表 2）。

表 2 （例）学力検査点の算出

ideal 選抜（仮）のC方式において学力検査点を算出する際、数学と理科が得意な生徒について、2教科を1.5倍にして合計した。

教科	共通選抜		ideal 選抜（仮）	
			C方式	
国語	100点	各教科の得点を合計	100点	5教科のうち2教科を1.5倍して合計
数学	100点		150点	
社会	100点		100点	
英語	100点		100点	
理科	100点		150点	

（参考）受験者によって異なる教科について傾斜配点を実施している制度

○（補助資料 p. 6）神奈川県「共通選抜」

2教科以内の得点に、1を超え2以下の係数を乗じることができる。

4 調査書について

(1) 評定について

- 原案では、共通選抜及び ideal 選抜（仮）の B 方式で選抜資料として用いることを想定している。
- B 方式においては、一部の教科または学年を重視して評価することも考えられる（表 3）。

表 3 （例）調査書点の算出

ideal 選抜（仮）の B 方式において調査書点を算出する際、国語、数学、社会、英語、理科のうち 2 教科を 1.5 倍にし、美術、技術家庭を 3 倍、音楽、保健体育を 2 倍にして合計した。

教科	共通選抜		ideal 選抜（仮）	
			B 方式	
国語	15 点	3 年間の評定の合計	15 点	3 年間の評定のうち、2 教科の評定を 1.5 倍して合計
数学	15 点		22.5 点	
社会	15 点		15 点	
英語	15 点		15 点	
理科	15 点		22.5 点	
音楽	30 点	3 年間の評定の合計 × 2 倍	30 点	3 年間の評定のうち、2 教科の評定を 3 倍、残り 2 教科の評定を 2 倍して合計
美術	30 点		45 点	
保健体育	30 点		30 点	
技術家庭	30 点		45 点	

（参考）現行の入試制度における調査書点の算出方法

○ 共通選抜

音楽、美術、保健体育、技術家庭の 4 教科の評定値を 2 倍にして、国語、数学、社会、英語、理科の評定値と合計して算出。

○ 特色選抜

各校が募集単位ごとに、教科ごと、学年ごとに定めた倍率を用いて算出した得点を合計。

国語、数学、社会、英語、理科：0.25 倍から 2.0 倍の間

音楽、美術、保健体育、技術家庭：0.5 倍から 4.0 倍の間

※不登校生徒を積極的に受け入れるため、この倍率未満に設定することも可

(2) 評定以外の記載事項について

- 調査書には、評定以外に、「総合的な学習の時間の記録」、「特別活動等の記録」、「スポーツ活動、文化活動、社会活動、ボランティア活動等の記録」等が記載。
- 原案では、ideal 選抜（仮）において、調査書の評定以外の記載事項も用いて総合的に審査を行うことを想定している。

5 志望理由書について

- 原案では、志望理由書の記載内容は、面接の際の参考資料とすることを想定している。
また、志望理由書は、出願時に提出することを想定している。

6 入試制度案全体について

- 求める生徒像に示した生徒を幅広く選抜することが可能となっているか。
- その他の選抜方法は考えられるか。

令和 7 年度高等学校入学者選抜審議会 第 1 回専門委員会

補助資料

- 1 複数の選抜方法の併用について
- 2 面接について
- 3 学力検査について
- 4 調査書について
- 5 志望理由書について

● 大阪府「エンパワーメントスクール特別入学者選抜」

(様式 111 表) A 4 判		＜特別・能勢分校・帰国生・一般・二次・秋季選抜用＞	
令和 7 年度入学者選抜			
※印は志願先高等学校で記入する。			
受験 番号	※	追検査	
自 己 申 告 書			
_____ 高等学校長 様			
下記のとおり、申告します。			
志願者名 _____			
記			
【テーマ】 あなたは、中学校等の生活（あるいはこれまでの人生）でどんな経験をし、何を学びましたか。また、それを高等学校でどのように生かしたいと思いますか。できるだけ具体的に記述してください。			

(参考) 大阪府「令和7年度大阪府公立高等学校入学者選抜実施要項（令和6年10月17日公表）」
(https://www.pref.osaka.lg.jp/o180040/kotogakko/gakuji-g3/r07_jisshiyoko.html)

複数の方式を併用して選抜する制度

● 北海道「道立高等学校一般入学者選抜」

対象となる学校	道立高校
選抜資料	○個人調査票（調査書） ○学力検査の結果 ○面接、実技を行った場合はその結果
選抜方法	次に示す方法で合格者を決定する。 (ア)募集人員の70%程度については、個人調査書の「各教科の評定」の記録と学力検査の成績を同等に取り扱い、選抜を行う。 (イ)募集人員の15%程度については、個人調査書の内容等を重視して、選抜を行う。 (ウ)募集人員の15%程度については、学力検査の成績を重視して、選抜を行う。

○ 「各教科の評定の記録」の算出方法

1 学年	2 学年	3 学年
9教科 × 5 段階評定 × 2 倍 = 90点満点	9教科 × 5 段階評定 × 2 倍 = 90点満点	9教科 × 5 段階評定 × 3 倍 = 135点満点
合計		
315点		

(参考)

北海道教育委員会「令和7年度（2025年度）道立高等学校入学者選抜の手引」

(<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/201495.html>)、

北海道教育委員会「【個人調査書】様式ダウンロード」

(<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/nyusenkojinchoushasho.html>)

受験者が選抜資料を選択する制度

- 島根県「長期欠席者等に配慮した選抜方式」
(令和8年度入試より実施予定)」

対象となる選抜	全ての高校の一般入学者選抜、第2次募集
概要	個人調査報告書（調査書）を用いず、学力検査、面接及び実技検査（実技検査は一部の学科のみ）の総合点により選抜する。
出願資格	中学校等在学中に長期にわたって欠席した者等
募集定員	特に定めない（各学科の募集人員の内数）
提出物	○自己申告書（受験者本人：提出できる） ○状況説明書（中学校：必須）
選抜方法	当該選抜方式での出願者を除いた一般入学者選抜又は第2次募集の学力検査の合格ラインを参考資料とする。
日程	一般入学者選抜、第2次募集の中で実施

（参考） 島根県「高校入学者選抜関連情報」
(https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/senbatsu/senbatsu_info/)

学力検査を実施しない制度

- 東京都「東京都立高等学校チャレンジスクール入学者選抜」

対象となる学校	チャレンジスクール
学校の特徴	小・中学校時代に不登校経験を持つ生徒や、長期欠席等が原因で高校を中途退学した者等を主に受け入れる。
概要	○学力検査なし ○調査書の提出不要 ○学校指定の志願申告書を提出
提出物	志願申告書（事前に提出）
選抜資料	○面接 ○作文 ○志願申告書
選抜方法	選抜資料を総合した審査結果にて判定。

（参考） 東京都「東京都立高等学校チャレンジスクール入学者選抜実施要綱」
(https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/4_20)

特色ある面接制度①

● 神奈川県「クリエイティブスクール」

対象となる学校	クリエイティブスクール（5校） 田奈、釜利谷、横須賀南、大井、大和東
学校の特色	一人ひとりが持っている力を必ずしも十分に発揮できなかった生徒に対して、これまで以上に学習意欲を高める取組を行う。
概要	○学力検査なし。 ○調査書は観点別評価のみを点数化。 ○面接及び自己表現検査は、各校で定めた評価の観点に基づき点数化。
選抜方法	調査書、面接、自己表現検査の合計値の高い者から総合的に選考。

○ 田奈高等学校（普通科）の例

	満点	評価の観点
面接	20点	・入学希望の理由 ・高校生活に対する意欲と積極性 ・面接への取組姿勢
自己表現検査	30点	・事前準備 ・本校の特色等の理解 ・高校生活に対する意欲と積極性

○ 田奈高等学校における自己表現検査

事前に与えられた本校の特色やグランドデザイン及び高校生活に対する意欲などに関するテーマについて自分の考えをまとめ、50分で記述する。テーマについては、募集期間の初日に学校ホームページで公開する。

特色ある面接制度②

● 広島県「自己表現」

対象となる選抜	一次選抜、二次選抜
概要	「広島県の15歳の生徒に身に付けさせたい力」である「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」がどのくらい身に付いているかをみるために実施する試験
実施形態	個人ごとの面談形式
内容	自分自身のこと（得意なことやこれまで取り組んできたことなど）や高等学校に入学した後の目標などについて、自分で選んだ言葉や方法で表現する。
自己表現の時間	5分以内
質問・回答	検査官は、受験者が自己表現した内容に対する補足的な質問を行う。 時間は、受験者が質問に回答する時間を含め3分以内とする。
評価	3観点について、3段階（5点、4点、3点）で評価。

評価の観点		
ア 自己を認識する力	イ 自分の人生を選択する力	ウ 表現する力
評価規準		
自分は何が好きなのか、自分はどういう人間なのかなど、自分自身のことを認識することができる。	自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができる。	自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえようように、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる。
評価及び評価の視点		
各観点について、それぞれ3段階で評価。 ○「十分に満足できる」状況 … 5点 ○「おおむね満足できる」状況 … 4点 ○「努力を要する」状況 … 3点		

（参考）広島県教育委員会 ホットライン教育ひろしま「自己表現について」
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/jikohyougen-mokuji.html>

受験者によって異なる教科について 傾斜配点を実施している制度

● 神奈川県「共通選抜」 ※実施校一覧から一部抜粋

【学力検査について】

2教科以内の得点に、1を超え2以下の係数を乗じることができる。

【調査書の学習の記録における評定について】

$$\left(\begin{array}{c} \text{第2学年の} \\ \text{9教科の} \\ \text{評定の合計} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{第3学年の} \\ \text{9教科の} \\ \text{評定の合計} \end{array} \right) \times 2$$

ただし、高等学校長は、3教科以内の評定合計値に、1を超え2以下の係数を乗じることができる。

○ 大船高等学校 全日制 普通科

学力検査

- 英語(×1.5)
- 国語、数学のうち点数の高い1教科(×1.5)

○ 上溝（かみみぞ）高等学校 全日制 普通科

学力検査

- 英語(×2)
- 国語、数学のうち点数の高い1教科(×1.5)

○ 市ヶ尾（いちがお）高等学校 全日制 普通科 荏田（えだ）高等学校 全日制 普通科 他

調査書

音楽、美術、保健体育、技術家庭科のうち、点数の高い1教科(×2)

○ 山北高等学校 全日制 普通科

調査書

音楽、美術、保健体育、技術家庭科のうち、点数の高い2教科(×2)

○ 鶴見総合高等学校 単位制による全日制 総合学科 他

調査書

点数の高い1教科(×2)

○ 横浜桜陽（おうよう）高等学校 単位制による全日制 普通科

調査書

点数の高い2教科(×2)

学力検査

点数の高い1教科(×2)

（参考）神奈川県「令和7年度神奈川県公立高等学校の入学者の募集及び選抜実施要領」
(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/dc4/nyusen/nyusen/jishiyoryo.html>)、
神奈川県「令和7年度神奈川県公立高等学校入学者選抜選考基準及び特色検査の概要」
(https://www.pref.kanagawa.jp/docs/dc4/nyusen/nyusen/senko_kijun.html)

調査書の提出が不要な制度

● 奈良県「奈良県立大和中央高等学校入学者選抜」

対象となる学校	大和中央高等学校
学校の特徴	「学びたいときに学べる学校」 「学ぶ必要ができたときに学べる学校」 生徒自身が授業を選択して時間割を作成し、自分のペースに合わせた学習計画を立て、修得した単位を積み重ね卒業を目指す。
概要	調査書の提出不要
選抜資料	○特色選抜学力検査問題（県教委作成） ○面接
選抜方法	原則として、各検査の合計点の多い者から順に選抜。

（参考） 奈良県「令和7年度奈良県立高等学校入学者選抜実施要項」
<https://www.pref.nara.jp/67201.htm>

● 鹿児島県「開陽高等学校 自己推薦」

対象となる学校	開陽高等学校
対象となる選抜	第1回入学者選抜（推薦入学者選抜）
学校の特徴	単位制、普通科・衛生看護科の3学科を併置し、生活スタイルに合わせて志望できる。他課程の単位修得可（受講条件あり）。
概要	○全日制・定時制の「自己推薦」は調査書の提出不要。 ○学力検査なし。
選抜資料	○自己表現（5分程度） ＋面接対話（15分程度） または ○作文（50分、600字程度） ＋面接対話（10分程度） ※自己表現の例 歌唱・絵・写真・弁論・朗読・創作（詩・小説・音楽）・英語暗唱・ハングルスピーチ・ダンス・楽器演奏（ギター・管楽器等）・手話・茶道・書道・弓道・野球・バスケットボール 等

（参考） 鹿児島県立開陽高等学校「令和7年度入学案内・生徒募集要項」
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kaiyo/docs/2021120800064/>

面接のための参考資料を提出する制度

● 東京都「エンカレッジスクール」

対象となる学校	エンカレッジスクール
学校の特徴	小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援する学校として、社会生活を送る上で必要な基礎的・基本的学力を身に付けることを目的として、既設校の中から指定。基礎・基本を徹底するとともに体験学習を重視。
概要	☐ 学力検査なし ☐ 面接、小論文または作文及び実技検査を実施。 ☐ 自己PRカードを面接の際の資料に活用。
選抜資料	☐ 面接 ☐ 作文 ☐ 調査書の観点別評価 ☐ 志願申告書
選抜方法	選抜資料を総合した審査結果にて判定。

自己PRカード

東京都立_____高等学校長 殿 _____年____月____日
 _____立_____中学校 校
 氏 名_____

- 1 志望理由について
 （この学校を志望した理由と入学してから自分が取り組みたいと思うことなどについて『本校の期待する生徒の姿』を参考にして記入しましょう。）

- 2 中学校生活の中で得たことについて
 （中学校生活の中で自分が特に伝えたいことを学校内外で体験したことから選び、そこから自分が得たことについて具体的に記入しましょう。）

- 3 高等学校卒業後の進路について
 （将来の夢や目標、将来なりたい職業など、高等学校卒業後の進路について自分が考えていることを具体的に記入しましょう。）

（参考）東京都教育委員会「「令和7年度東京都立高等学校入学者選抜実施要綱・同細目」において志願者が作成する様式について」

（https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/high_school/archives/exam/applicantfile2025）